

2020 年度事業 中間評価報告書（一般社団法人 TeamNorishiro）

評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
内部	再評価全般		TeamNorishiro 代表理事
内部	再評価全般		TeamNorishiro 理事 東近江圏域働き・暮らし応援センター “Tekito-“ センター長

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

指標	目標値・状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
(命を守る場) ・つながった人数 ・その要因がわかる地域の状態の具体例	(状態) 東近江市において、引きこもりや障がいを持つ本人の命を守る体制が構築されはじめ、緊急避難所があり命を守る活動が始まっている。 (目標値) ・つながった人数：25 人 ・その要因がわかる地域の状態の具体例：1 例	2023 年 2 月	・整備後の緊急避難場になることを説明、知り合いと知ってる場所が地域にあればそれがセーフティネットになるとあらためて確認できた。

<p>(地域で暮らすための力を育む場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながった人数 ・その要因がわかる地域の状態の具体例 	<p>(状態) 東近江市において、引きこもりや障がいを持つ本人が地域で暮らすための力を育む場が構築されはじめ、地域で暮らしはじめています。</p> <p>(目標値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながった人数：150人 ・その要因がわかる地域の状態の具体例：1例 	<p>2023年2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、一人暮らしの訓練として調理や宿泊、近所づきあいなど地域で暮らすための力を育む場として利用開始していく。
<p>(親や支援する若者の学びとつながりづくりの場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながった人数 ・その要因がわかる地域の状態の具体例 	<p>(状態) 東近江市において、引きこもりや障がいを持つ本人を支える親や支援する若者へのコミュニケーションサポート体制が構築されはじめ、立場に自信を持ち、仲間ができ本心が話せるようになっている。</p> <p>(目標値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながった人数：90人 ・その要因がわかる地域の状態の具体例：1例 	<p>2023年2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設でない民家という場がアクセスのハードルを下げる。
<p>(障がい福祉部門外とのつながりづくりの場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながった人数 ・その要因がわかる地域の状態の具体例 	<p>(状態) 東近江市において、多職種での理解が促進して、障がい福祉部門との連携体制が構築されはじめ、多職種に協力者・賛同者ができるはじめています。</p> <p>(目標値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながった人数：50人 ・その要因がわかる地域の状態の具体例：1例 	<p>2023年2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種の研修の場として利用を開始。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>2022年度は空き家の取得、整備を実施。整備中であるが利用できる部屋から活動を開始した。公共施設でない利用しやすさ、集落にある意味が実感できた。2022年3月に風呂、台所の整備が完成したため、2023年度から本格的に利用が始まり目標値はおおむね達成できると考える。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動は計画どおり実施されているか？	2021.4 から 2022.3 まで 大萩基地利用報告書より	
	食の提供とメンタルサポート、緊急避難場所の提供により、福祉サービスを利用していない引きこもりや障がいを持つ本人の命を守る体制が構築されはじめていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・食と心の支援：1名 ・緊急的な暮らしの場の確保：3名 ・サポート：TeamNorishiro、東近江圏域働き・暮らし応援センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る体制が構築されはじめています。 目標達成率：4人/25人=16%
	単身生活に向けた体験や屋内で交流体験の他、定期的に働く場の提供により、福祉サービスを利用していない本人が地域で暮らせるための力を育む場が構築されはじめていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの経験：1名 ・働く場所と違う交流の経験：10名 ・定期的に働く経験：薪5名、着火材22名 ・サポート：TeamNorishiro、Team 困救、東近江圏域働き・暮らし応援センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らせるための力が構築されはじめています。目標達成率：38人/50人=76%
集いと学びの場を提供することにより、引きこもりや障がいを持つ本人を支える親や支援する若者へのコミュニケーションサポート体制が構築されはじめていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・親の学ぶとつながりづくり2回、4名 ・若者の学ぶとつながりづくり9回、67名 ・サポート：TeamNorishiro、Team 困救、東近江圏域働き・暮らし応援センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・支える親や支援者へのコミュニケーションサポート体制が構築されはじめています。 目標達成率：11回71人/30人=230% 	

	地域の障がい福祉以外の企業や学校など働く人を対象に集いと学びの場を提供することにより、多職種での理解が促進して、障がい福祉部門との連携体制が構築されはじめていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種の学ぶとつながりづくり 7 回、87 名 ・サポート：TeamNorishiro、東近江圏域働き・暮らし応援センター、東近江三方よし基金 	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種での理解が促進して、障がい福祉部門との連携体制が構築されはじめています。 目標達成率：7 回 87 名/15 人=580%
	事業を達成するうえで支障となる問題は起きていないか、その要因は何か？	・命を守る体制構築の目標達成が 16%と低い、その他 3 項目は支障なし。	・命を守る体制構築の問題要因は、台所と風呂の整備が 2022 年 3 月となったことである。
	今後留意していかなければならないことは何か？	・他の組織との利用に関するコミュニケーション方法	・支援センター太陽、東近江地域障害者生活支援センターれいんぼうの利用希望があり、これらとの利用に関するコミュニケーション方法に留意する。
実施をととした活動の改善、知見の共有	アウトプット発生に影響を与えた阻害要因、貢献要因は何か？	【貢献要因】 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設でない 	【貢献要因】 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設でなく、民家なので誰も訪問を拒否したものがいない。対象にとって祖父母の家に行くような感覚と考える。 ・公共施設の駐車場は広いが、本場所は民家のため駐車場が狭いので、対象にとって限られた人しか会うことがないという心理的安心が得られる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・畑や庭がある ・利用の手続きがわからない ・自分の住む場所でない ・集落の中にある <p>< 阻害要因 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・風呂、台所の整備の遅れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・畑や庭があることで、働くことが発生して、これが対象者や地域住民とのコミュニケーションのツールとなっている。 ・公共施設や公共サービスでないので、利用の手続きがいらなく、利用したい時すぐに使える。 ・若い支援ワーカーや行政職員は、制度でない施設の利用経験ができた。 ・制度関係なく利用できることで支援の幅が広がった。 ・集落の中にあるので、自分の住む集落ではハードルが高い近所づきあい（あいさつ、庭先のそうじなど）がここではできる。 ・集落の中にあるので、集落の自治のしくみを学べる。 <p>【阻害要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風呂、台所の整備が2022年3月までかかった。
--	--	--	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの影響 	<p>【対応策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年3月に風呂、台所の整備が完成したため、風呂、台所の整備、一人暮らし経験の活動を本格的に開始する。 ・当初計画では、既に公共施設で開催されていた障がい者の親の会、企業の会を、本場所で開催する予定であったが、コロナウイルスの影響で開催できない。 <p>【対応策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染対策として少人数で対応。
	事業の進捗において必要な実施事業の見直しが行われているか？	・特に事業計画の見直しは必要なし	－
	今後留意していかなければならないことは何か？	・他機関の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・支援センター太陽、東近江地域障害者生活支援センターれいんぼうの利用希望があり、これらとの利用に関するコミュニケーション方法として、連絡ノートなどを設置して利用の記録が共有できるようにする。

組織基盤強化・環境整備	事業の運営管理体制に問題はないか？	・トラブル対応の共有化	・今後、利用においてトラブル発生時に、どのように対処して、学びや次へのステップにするかなど、トラブル発生時の考え方をスタッフで共有しておく。
	組織の財務状況、財務体質に変化は生まれているか？	・若者や多職種の学びの場を収益事業へ	・今後は、企業の新人研修や人権研修のプログラムを作成して、収益事業とする。
	地域内で新たに構築された人や団体との協力、連携関係はあるのか？		・支援センター太陽（指定特定・一般相談支援事業所、地域活動支援センター）との連携：支援センター太陽が支援する精神障害者を支援する。 ・東近江地域障害者生活支援センターれいんぼうとの連携：支援センターれいんぼうが支援する障害者を支援する。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

<貢献要因>

- ・公共施設でない
- ・畑や庭がある
- ・利用の手続きがいらない
- ・自分の住む場所でない
- ・集落の中にある

<事例>

2021 年度 大萩基地利用報告一覧表

③ 事前評価時には想定していなかった成果

・集落の中にあるので、自分の住む集落ではハードルが高い近所づきあい（あいさつ、庭先のそうじなど）がここではできたこと。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>・事業計画に特に問題はない。</p>

添付資料

- 1.中間評価実施前の事業計画（必須）
- 2.評価計画書